

第50回日本小児感染症学会

第50回学術集会レポート表彰式

研究委員会委員長

木村 宏

Young Investigator Award は学術集会に応募した会員で、筆頭著者が翌年4月の時点で40歳未満であり、まだ本賞を受賞したことのない方から、優れた研究を行い将来性の高い3名を選ぶものです。例年は研究委員会を選出した候補者に対し、学術集会の発表と質疑を踏まえて、全ての理事と評議員が審査員となって最終選考を行っていました。今年もAsian Congress of Pediatric Infectious Diseases (ACPID) と合同開催のため、ACPIDの口頭発表に登録し、本学会員でありかつ年齢制限内であった25名の演題を選考対象としました。田中敏博委員長の下で、研究委員会にて、厳正な審査を行った結果、以下の3名を選出いたしました。3人の受賞者へは副賞として、ACPIDやAsian Society for Pediatric Research (ASPR)などの国際学会に参加し研究内容を発表するための補助費として、10万円を贈呈いたします。

本年のYIA受賞者と演題名は以下の通りです。

中島 康貴先生 九州大学病院 小児科

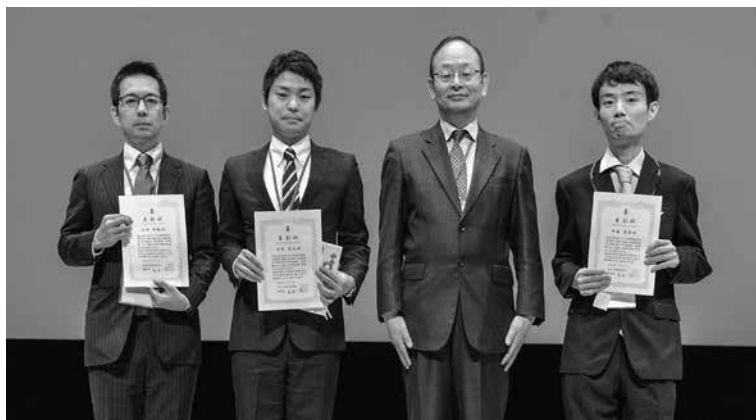
「Identification and characterization of Kawasaki disease-specific molecules」

今井 崇史先生 田川市立病院 小児科

「Critical role of Mincle in protection against invasive infection by group A Streptococcus」

山田 全毅先生 ピッツバーグメディカルセンター 小児科（慶應大学 小児科）

「Kinetics and preventive utility of urine BKV monitoring after pediatric kidney transplantation」



YIA 受賞者3名

左から山田 全毅先生、今井 崇史先生、尾内 一信理事長、中島 康貴先生です。

次に、ポスター賞の表彰を行いました。こちらは YIA とは異なって年齢制限はなく、ポスターセッションの活性化や、YIA とは異なった観点から小児感染症研究に勤しむ会員を鼓舞することを目的としています。選出方法は以下の通りです。まず学術集会ポスター発表に登録された演題の中から、橋本浩一委員長の下、研究教育委員会が 14 題の候補演題を事前に選出しました。学術集会初日、全ての理事および評議員が審査員となって、実際にポスターを閲覧して投票を行い、集計後得点の高かった以下の 5 名を選出しました。

以下、本年度のポスター賞の受賞者と演題名です。

川崎 幸彦 福島県立医科大学医学部 小児科学講座

「過去 30 年間における福島県での急性脳炎・脳症による死亡例の経時的推移とそのリスク因子解析」

中村 祥崇先生 川崎医科大学 小児科学教室

「日本全国における小児マイコプラズマ感染症の近年の動向」

中田 恵子先生 大阪健康安全基盤研究所 ウイルス課

「新生児におけるコクサッキーウイルス B 群感染の危険性」

種市 尋宙先生 富山大学医学部 小児科

「わが国の Vaccine hesitancy に関する検討」

羽田 敦子先生

公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院 小児科

「妊婦 GBS スクリーニング法改変による新生児侵襲性 GBS 感染症への影響 (全国調査)」



ポスター賞受賞の 5 名

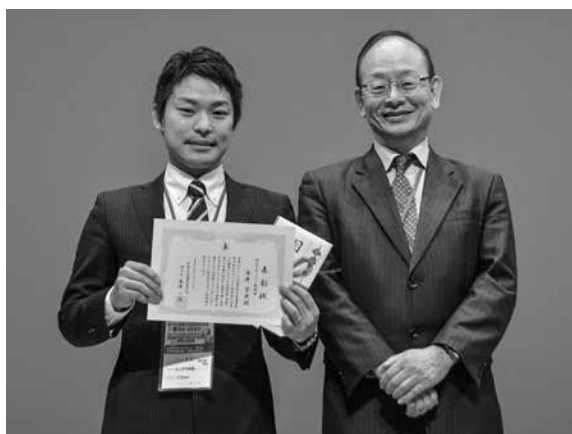
左から羽田 敦子先生、種市 尋宙先生、中田 恵子先生、尾内 一信理事長、中村 祥崇先生、川崎 幸彦先生です。

続いて、研究プロジェクト助成金の説明を致します。これは小児感染症・免疫にかかわる研究を奨励し援助することを目的に、平成 18 年度から開始しました。当初は研究奨励賞という名称でしたが、平成 23 年より名称変更しております。特に研究費の捻出が困難な一般病院や開業医の先生方の応募を強く歓迎し募集しているもので、受賞者には 40 万円の研究助成金が授与されます。義務として奨励金使用およびそれによる研究成果の概要を、学会誌において報告し、また研究成果は本学会学術集会においても発表していただきます。

金兼弘和選考委員長の下、厳正な審査を行い 1 名選出しました。本年の研究プロジェクト助成金受賞者と演題名は以下の通りです。

今井 崇史先生 田川市立病院 小児科

「入院時の採血データに基づいた抗菌薬使用量の削減（肺炎を除く下気道感染症入院症例の検討）」



研究プロジェクト助成金受賞者 1 名

左から今井 崇史先生、尾内 一信理事長です。今井先生は YIA とダブル受賞です。

最後に、本年は、海外からの ACPID 参加者に対しても優秀な演題を表彰いたしました。ACPID の口頭発表に登録した海外参加者 8 題の抄録の中から、田中敏博委員長の下、研究委員会にて厳正な審査を行った結果、上位 4 題を ACPID-YIA 受賞者といたしました。

以下が ACPID-YIA 受賞者名と演題名です。

Dr. Joy Latag Morcilla

University of the Philippines-Philippine General Hospital, Batangas Medical Center

「Accuracy of nasopharyngeal aspirate GeneXpert compared to gastric aspirate TB culture and GeneXpert in diagnosing pulmonary tuberculosis in pediatric patients in a tertiary government hospital」

Dr. Nasamon Wanlapakorn

Center of Excellence in Clinical Virology, Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand

「Cellular responses to whole cell versus acellular pertussis vaccine before and after the first booster in children born to mothers who received Tdap during pregnancy」



Dr. Budyarini Prima Sari

Department of Child Health, Faculty of Medicine, Public Health and Nursing, Universitas Gadjah Mada, Yogyakarta, Indonesia

「KIDNEY INVOLVEMENT AS PROGNOSTIC FACTOR FOR MORTALITY IN PATIENTS WITH DENGUE SHOCK SYNDROME」

Dr. Vianney Tricou

Takeda Pharmaceuticals International AG, Zurich, Switzerland

「Safety, Humoral and Cell-mediated Immunity of Takeda's Dengue Vaccine Candidate in a Paediatric Population Living in Dengue Endemic Countries」